

[Press Release 2019.8.28/29] Part 1

京都市京セラ美術館
オープニング・
ラインナップのご案内

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

オープニング・ラインナップの構成にあたって

大規模リニューアル後の京都市京セラ美術館では、歴史的な本館と現代アートに対応した新館「東山キューブ」、新進作家を中心に発信する「ザ・トライアングル」といった展示室に加え、「京セラスクエア」「日本庭園」などによって、アートと触れ合えるシーンと、鑑賞していただける分野が大きく広がります。スペースの特徴や機能を十二分に活かしながら、近代から現代までを織り交ぜた多様なジャンルのアートを発信することで、伝統と革新が交わり進化する、京都ならではの文化の新たな一面をご覧いただくことを目指しています。

本館では、開館記念展となる「京都の美術 250年の夢」を開催。江戸から明治、そして現代まで約250年間の京都の名品を集め、3期にわたってかつてない規模で総覧することで、京都の美術を総合的に紹介します。また、新設するコレクションルームでは、当館のコレクションから京都画壇の日本画、工芸などの名品を選びすぐって紹介。季節ごとの展示替えにより、四季折々の京都の美をいつでも感じていただけるでしょう。

現代アートのほか、アニメーションやコミック、ファッションなどを幅広く紹介する新館「東山キューブ」では、美術系大学を多く擁する京都のアートシーンに国際性と現代性という新しい風を吹き込むことを意識しています。開館記念展では、歴史や時間、人間の意識の起源をテーマに制作活動を続け、国際現代アートシーンの第一線で活躍する杉本博司を迎え、「杉本博司 瑠璃の浄土」を開催します。作家自身のこれまでの京都との関わりと当館が立地する岡崎の文脈に目を向け、時代を超えた普遍的な日本の美意識を国内外に発信します。

その他にも、2020年東京オリンピック・パラリンピックで海外からのお客様を多数お迎えする夏には、アニメ文化を幅広く発信してきた京都から、日本を代表するキャラクター「ドラえもん」と日本の現代アートを取り上げた「THEドラえもん展 KYOTO 2020」を開催。また、1964年の「ミロのヴィーナス特別公開」をはじめ、多くの海外のマスターピースを紹介してきた当館のリニューアル後初の大規模海外展として、20世紀後半を代表するポップアートの巨匠アンディ・ウォーホルの展覧会を京都で初開催します。オープニング・ラインナップの最後を飾る「平成の美術1989-2019」(仮称)では、自然災害と常に向き合い、乗り越えながら芸術文化を積み重ねてきた日本の営みを、京都の美の源泉に重ねながら平成の美術の総括を試みます。

開館に先駆け2019年12月から、京都にゆかりのあるアーティストを迎え、開館を祝う「プレイベント」も始まります。来年3月21日に生まれ変わる美術館の活動にどうぞご期待ください。

京都市京セラ美術館
オープニング・ラインナップのご案内

■ オープニング・ラインナップ

京都市京セラ美術館開館記念展

京都の美術 250年の夢 p. 4

プロローグ「最初的一步：コレクションの原点」

2020年3月21日(土)～4月5日(日)

第1部「江戸から明治へ：近代への飛躍」

2020年4月18日(土)～6月14日(日)前期・後期

第2部「明治から昭和へ：京都画壇の隆盛」

2020年7月11日(土)～9月6日(日)前期・後期

第3部「戦後から現代へ：未来への挑戦」

2020年10月3日(土)～12月6日(日)前期・後期

京都市京セラ美術館開館記念展

杉本博司 瑠璃の浄土 p. 6

2020年3月21日(土)～6月14日(日)

THE ドラえもん展 KYOTO 2020 p. 8

2020年7月4日(土)～8月30日(日)

ANDY WARHOL KYOTO / アンディ・ウォーホル・キョウト p. 8

2020年9月19日(土)～2021年1月3日(日)

平成の美術 1989 – 2019 (仮称) p. 9

2021年1月23日(土)～4月11日(日)

■ 常設展示

コレクションルーム p. 10

京都市京セラ美術館開館記念展

京都の美術 250年の夢

会期：プロローグ 2020年3月21日(土)～4月5日(日)

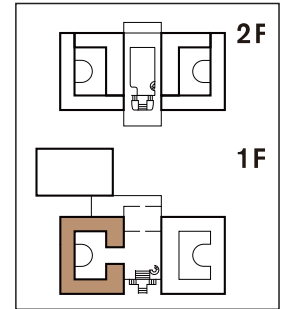
第1部 2020年4月18日(土)～6月14日(日) 前期・後期

第2部 2020年7月11日(土)～9月6日(日) 前期・後期

第3部 2020年10月3日(土)～12月6日(日) 前期・後期

会場：本館 北回廊1階 ※第3部のみ北回廊1階、2階

主催：京都市ほか



当館は、1933年に「大礼記念京都美術館」の名称で開館し、今年(2019年)で86年の歴史を誇る公立美術館です。2020年春のリニューアルオープンを記念する本展では、当館の歩みを振り返るとともに、これからを展望する上で、当館のコレクションの真髄である「京都の美術」をかつてない規模で全国から集めて総合的に紹介します。

明治維新から100年を遡った江戸後期の「京都の美術」を綺羅星のごとく輝く伊藤若冲、与謝蕪村、池大雅、曾我蕭白、円山応挙、松村呉春、長澤芦雪にはじまり、明治から昭和にかけて、東京画壇に対抗する京都画壇を隆盛させた竹内栖鳳、上村松園、土田麦僊、村上華岳など、そして戦後から現代にかけては伝統を受け継ぎ革新的な日本画を描いた小野竹喬、福田平八郎、堂本印象、池田遥邨などに至るまで、日本画の代表作家を中心に、同時代に活躍した工芸家たち、明治期に登場した洋画家や彫刻家たち、さらには戦後における現代美術の若き作家たちを加えて、「京都の美術」の250年の歴史を彩った総計400点を越える名作を三部構成で展示します。



曾我蕭白《群仙図屏風》1764年 文化庁蔵 重要文化財

企画の特色

・日本画と工芸を中心軸に、「京都の美術」を総合的に展望

「京都の美術」では一般的に日本画に関心が集まりがちですが、じつは同時代の工芸には面白く優れた作品が多数存在します。明治に登場した洋画や彫刻が、京都ならではの日本画や工芸との関わりのなかで、どのように展開したのか。戦後から現代にかけての時代の潮流のなかで、「京都の美術」の伝統を継承しながら、どのような新しい創造が行われたのか。これまで時代や分野ごとに紹介されることの多かった「京都の美術」の全貌を、分野を超えて総覧することを試みます。

・京都にない、京都の美術

本展は、文化庁の文化資源活用推進事業として採択されており、文化庁をはじめ、宮内庁三の丸尚蔵館、東京国立博物館、京都国立博物館、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、東京藝術大学大学美術館など日本を代表する美術館、博物館の協力を得て開催するものです。本展では、京都にある名品だけではなく、東京などに所蔵されて京都でもなかなか鑑賞できない「京都の美術」の代表作を全国から一堂に集め、ご覧いただきます。

プロローグ 最初の一步：コレクションの原点

リニューアルオープンに合わせた特別企画として、「最初の一步：コレクションの原点」を開催。開館3年目（1935年）に初開催した「本館所蔵品陳列」の出品作品（全47点）を一挙に紹介します。コレクションの「最初の一步」を86年の時を経て再構成することで、鑑賞者とともに新たな出発をする当館の未来へ向けた「夢」を見つめます。



中村大三郎《ピアノ》 1926年 当館蔵

第1部 江戸から明治へ：近代への飛躍

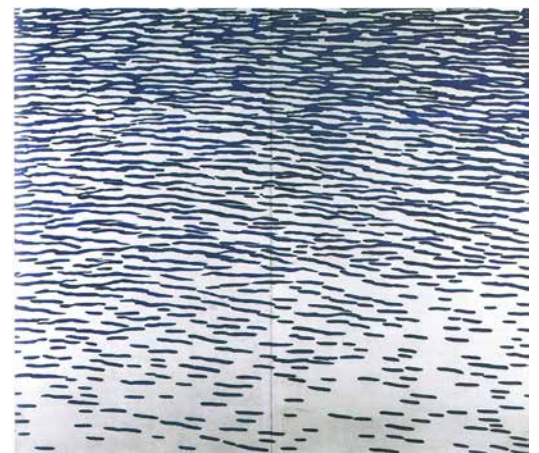
第1部では、近代以降の京都画壇の源流となった円山応挙の写生画や与謝蕪村の文人画の時代にまで遡り、京都における江戸美術の精華を紹介。「近代への飛躍」の歩みを辿ります。京都画壇はこの時代、江戸後期の沈滞から幕末の動乱と明治維新の衝撃によって混乱する社会・経済状況を乗り越えて、新たな出発を始めました。近代化の過程を「江戸から明治へ」と連続的に振り返ることで、「京都の美術」の飛躍を紹介します。



与謝蕪村《鶯・鴉図》 江戸期 北村美術館蔵 重要文化財

第2部 明治から昭和へ：京都画壇の隆盛

第2部では、明治から戦前にかけて全盛期を迎えた京都画壇をはじめ、多方面で本格的な活動が展開された「京都の美術」が隆盛を極めた時代を紹介します。日本画では、東京画壇に対抗して、竹内栖鳳を中心に京都画壇が形成されました。また、若い世代は西洋近代美術に触発されて国画創作協会を結成。工芸でも個性を重視した自由な制作が目指され、五代清水六兵衛などが頭角を現しました。柳宗悦が提唱した民芸運動も京都に端を発し、河井寛次郎などが活躍。洋画では、浅井忠や北脇昇も登場しました。総じて正統と革新が織りなす「京都の美術」の懐の深さを実感していただけることでしょう。



福田平八郎《漣》 1932年 大阪中之島美術館準備室蔵 重要文化財

第3部 戦後から現代へ：未来への挑戦

第3部では、敗戦による価値観の転換によって日本画・工芸の伝統が問い直され、戦後再出発するとともに、1960年代以降には現代美術が登場して、現在までの多様多彩な展開を見せる「京都の美術」の動向を回顧します。日本画では、新たな表現を探求する若い画家たちが創造美術（後の創画会）やパンリアル美術協会を結成。1980年代には会派を越えて結成された「横の会」が現代の日本画を開拓しました。工芸や洋画でも、若い作家たちによって伝統の継承と新たな表現の葛藤の中で多様な創作が行われ、社会的な主題を持った作品も指向されるようになりました。本展の結びとなる第3部では、未来に挑む「京都の美術」をご覧ください。

京都市京セラ美術館開館記念展

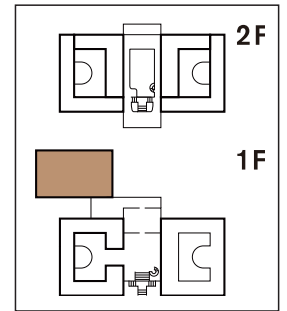
杉本博司 瑠璃の浄土

会期：2020年3月21日(土)～6月14日(日)

会場：新館 東山キューブ

主催：京都市ほか

ゲスト・キュレーター：三木あき子



当館に新たにオープンする新館「東山キューブ」における開館記念展として、国際的に活躍するアーティスト、杉本博司の個展「杉本博司 瑠璃の浄土」を開催します。

杉本博司は、1970年代より、大型カメラを用いた高度な技術と独自のコンセプトによる写真作品を制作し、世界的に高い評価を受けてきました。また、古今東西の古美術や歴史資料等の蒐集、建築、舞台演出といった幅広い活動を行い、時間の概念や人間の知覚、意識の起源に関する問いを探求し続けています。

これまで幾度となく京都を訪れ、その長い歴史から思索を誘発されてきた杉本は、当地で撮影を行い、作品も生み出してきました。今回、かつて6つの大寺院が存在していた京都・岡崎の地に立つ京都市京セラ美術館が再生されるにあたり、「瑠璃の浄土」のタイトルのもと、仮想の御寺の荘厳を構想します。

瑠璃とは、ラピスラズリーの群青色や硝子などを表し、また薬師瑠璃光如来へも繋がるものです。古代から人の心を捉えて離さない、硝子-レンズ-写真にも繋がるこの不思議な物質の魔力に、杉本もまた深く魅入られてきました。本展では、世界初公開となる大判カラー作品シリーズ「OPTICKS」や、硝子にまつわる様々な作品や考古遺物が展示されます。

杉本博司の京都での美術館における初の大規模展となる本展では、「瑠璃」、「浄土」、「偏光色」をキーワードとして、写真を起点に宗教的、科学的、芸術的探求心が交差しつつ発展する杉本の創造活動について改めて考えるとともに、長きにわたり浄土を希求してきた日本人の心の在り様を見つめ直します。



杉本博司 《OPTICKS 008》2018年
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi



《法勝寺 瓦》平安時代末—鎌倉時代初期
撮影：小野祐次

企画の特色

・杉本の原点である写真作品の大規模展示

新作の大判カラープリントシリーズ「OPTICKS」を初公開します。

・多彩な関連プログラム

展示の一部として日本庭園に設置する日本初公開の《ガラスの茶室 ^{モンドリアン} 聞鳥庵》でパフォーマンスを行うほか、杉本プロデュースによる能楽の公演をロームシアター京都で実施（詳細は次ページ参照）。また、作家自身による講演会なども計画しています。

関連プログラム

1 日本庭園に《ガラスの茶室 ^{モンドリアン} 聞鳥庵》を長期展示

《ガラスの茶室 聞鳥庵》が、ヴェネツィアやヴェルサイユ宮殿での展示を経て、ついに日本初上陸！新館に隣接した日本庭園に設置し、展覧会終了後もパブリックアートとして2020年冬頃まで公開。会期中には、田中泯「オドリ」や茶会のパフォーマンスを開催し、伝統と現代が融合する空間を創出します。

2 杉本博司プロデュース 能楽『月見座頭』『三番叟』

「杉本博司 瑠璃の浄土」関連プログラムのひとつとして、杉本プロデュースによる能楽を京都で初めて上演します。日本で最も古い祝儀芸能のひとつである『三番叟』^{しゅくぎ}を再構築。時代とジャンルを超えた伝統芸能と現代美術の融合により、“拡張する古典”を具現化します。野村萬斎と息子・裕基による三番叟は雄渾で躍動感があり、エキサイティングな舞台となるでしょう。人間国宝・野村万作の極めつくした最高の芸を堪能できる『月見座頭』も同時上演します。杉本博司の創り上げる世界観のもと、野村家の親子三代が共演する夢の舞台をお楽しみいただきます。

公演日：2020年4月25日(土)

会場：ロームシアター京都 サウスホール

企画・舞台構成：杉本博司

出演：『月見座頭』＝野村万作 ほか | 『三番叟』＝野村萬斎、野村裕基 ほか

チケット発売日：2019年10月上旬詳細発表



杉本博司《ガラスの茶室 聞鳥庵》

ヴェルサイユ宮殿での展示風景、2018年

©Hiroshi Sugimoto. Architects: New Material Research Laboratory / Hiroshi Sugimoto + Tomoyuki Sakakida. Originally commissioned for LE STANZE DEL VETRO, Venice / Courtesy of Pentagram Stiftung & LE STANZE DEL VETRO



『三番叟』写真提供：小田原文化財団

©Odawara Art Foundation

杉本博司 プロフィール

1948年生まれ。1970年渡米後、1974年よりニューヨークと日本を行き来しながら制作を続ける。代表作に「海景」、「劇場」シリーズがある。2008年に建築設計事務所「新素材研究所」、2017年には構想から10年をかけて建設された文化施設「小田原文化財団 江之浦測候所」を開設。演出と空間を手掛けた『At the Hawk's Well / 鷹の井戸』が2019年秋にパリオペラ座にて上演。著書に『苔のむすまで』、『現な像』、『アート起源』などがある。2001年ハッセルブラッド国際写真賞、2009年高松宮殿下記念世界文化賞（絵画部門）受賞、2010年秋の紫綬褒章受章、2013年フランス芸術文化勲章オフィシエ叙勲。2017年文化功労者に選出。



Self portrait 2018
©Sugimoto Studio

* 細見美術館（左京区岡崎）にて、杉本博司企画の「飄々表具展」も同時期に開催されます。併せてご覧いただくことで、杉本ワールドをより一層堪能いただけます。

THE ドラえもん展 KYOTO 2020

会期：2020年7月4日(土)～8月30日(日)

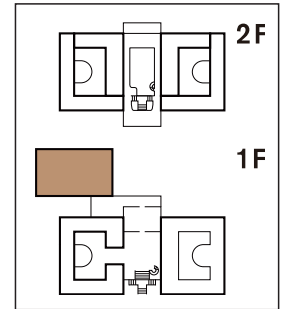
会場：新館 東山キューブ

主催：京都市ほか

新館「東山キューブ」での展覧会第2弾として「THE ドラえもん展 KYOTO 2020」を開催します。本展は、現代アートの最前線で活躍する28組のアーティストによるドラえもんをテーマとした展覧会です。2020年は、「ドラえもん」連載開始から50年目の節目にあたります。日本が国際的に注目をあつめるオリンピック・イヤーの夏、アニメ文化を幅広く発信してきた京都にやってくる「THE ドラえもん展 KYOTO 2020」。日本を代表するキャラクターであるドラえもんと現代アートの夢の競演をお楽しみください。

参加アーティスト：会田誠、梅佳代、小谷元彦、クワクボリョウタ、鴻池朋子、後藤映則、近藤智美、坂本友由、佐藤雅晴、シシヤマザキ、篠原愛、しりあがり寿、中里勇太、中塚翠涛、奈良美智、西尾康之、蛭川実花、福田美蘭、増田セバスチャン、町田久美、Mr.、村上隆、森村泰昌+コイケジュンコ、山口晃、山口英紀+伊藤航、山本竜基、れなれな(中島玲菜)、渡邊希

(50音順・敬称略)



村上隆「あんなこといいな 出来たらいいな」(部分)
©2017 Takashi Murakami/Kaikai Kiki Co., Ltd.
All Rights Reserved. ©Fujiko-Pro

企画：THEドラえもん展 TOKYO 2017 実行委員会 (テレビ朝日、朝日新聞社、ADK EM、小学館、シンエイ動画、小学館集英社プロダクション、乃村工藝社)
特別協力：藤子プロ

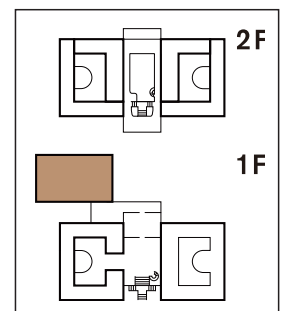
ANDY WARHOL KYOTO / アンディ・ウォーホル・キョウト

会期：2020年9月19日(土)～2021年1月3日(日)

会場：新館 東山キューブ

主催：京都市、アンディ・ウォーホル美術館、ANDY WARHOL KYOTO実行委員会

1960年代のニューヨークで、大衆文化・消費社会のイメージを主題や素材とする「ポップ・アート」の旗手として活躍した唯一無二のアーティスト、アンディ・ウォーホル。本展は、日本で約6年ぶりの開催となる大規模な個展であり、京都における初の本格的なウォーホル展となります。米国ピッツバーグにあるアンディ・ウォーホル美術館の所蔵品から、イラストレーターとして活躍していた1950年代の初期作品をはじめ、1960年代に制作された「死と惨事」シリーズに代表される象徴的なキャンバス作品、映画やテレビ番組などの映像、注文絵画としてのセレブリティのポートレート、そして、宗教画を参照した晩年の作品を展示します。大衆消費社会のいわば光と影の両面を映し出す作品約200点を通して、複雑なウォーホル像に迫ります。



企画：imura art planning、ソニー・ミュージックエンタテインメント
WEB：https://www.andywarholkyoto.jp

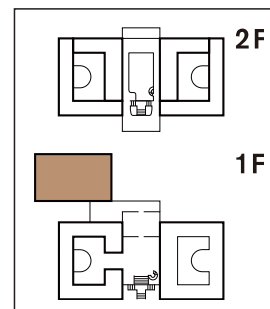
平成の美術 1989-2019 (仮称)

会期：2021年1月23日(土)～4月11日(日)

会場：新館 東山キューブ

主催：京都市ほか

企画・監修：榎木野衣



新館「東山キューブ」の展覧会第4弾として、1990年代以降の美術評論を常に取り上げてきた美術批評家の榎木野衣氏を企画・監修に迎え、「平成の美術 1989-2019」(仮称)を開催します。

1999年に「日本ゼロ年」展(水戸芸術館)を企画・監修した榎木は、その当時、1990年前後の日本における現代アートの一断面を鮮やかに切り取って見せました。同展は榎木の著書『日本・現代・美術』(1998年)で提示した日本の現代アートの立脚点に関する論考と呼応し、他にない作家選定により時代を象徴する作品群を立体的に構成しました。

榎木はその視座を押し広げ、2017年に『震美術論』(芸術選奨 評論等部門 文部科学大臣賞受賞)を上梓し、繰り返す地震や津波などに晒される日本固有の美術史がありうることを、「忘却」と「反復」というキーワードとともに示しました。

本展では「平成」年間(1989-2019)の日本の美術を取り上げます。震災・自然災害が頻発し、バブル経済とその崩壊以降の経済的な停滞期を経た平成という時代において、日本の美術家たちがこうした状況にいかに対応してきたかを振り返ります。文化芸術の創造拠点であるここ京都の地で、およそ30年にわたる果敢で実験的な現代アートを新鮮な切り口で展示することによって、日本固有の美術の到達点が鮮やかに浮かび上がります。どうぞご期待ください。

榎木野衣 プロフィール

美術批評家。1962年秩父市生まれ。著書に『日本・現代・美術』(新潮社、1998)、『増補版シミュレーションイズム』(ちくま学芸文庫、2001)、『「爆心地」の芸術』(晶文社、2002)、『戦争と万博』(美術出版社、2005)、『反アート入門』(幻冬舎、2010)、『アウトサイダー・アート入門』(幻冬舎新書、2015)、『後美術論』(美術出版社、2015、第25回吉田秀和賞受賞)、『震美術論』(美術出版社、2017)ほか多数。展覧会に「アノーマリー」展(レントゲン芸術研究所、1992)、「日本ゼロ年」展(水戸芸術館、1999)など。多摩美術大学教授。

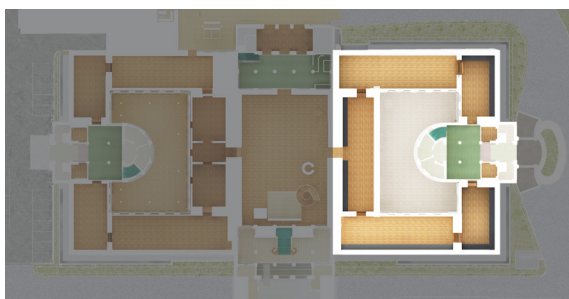
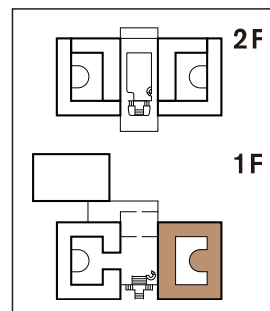


コレクションルーム

会場：本館 南回廊 1階

当館は開館以来、近代以降の「京都の美術」を収集してきました。現在までに、3,600点を越える総合的なコレクション（日本画、洋画、彫刻、版画、工芸、書）を形成していますが、とくに明治から昭和にかけての京都画壇の作家たちによる作品群には、近代の日本画を代表する名品が揃い、自他ともに認める優れたコレクションとなっています。

リニューアルオープンを機に、当館では新たにコレクションルームを新設します。京都の四季に合わせた年4回の展示替えによって、日本画の名品を中心として、各分野の季節感に溢れた作品などを多数紹介します。



コレクションルームが新設される本館南回廊1階 イメージ図



コレクションルーム イメージ図



天の中庭(イメージ図)では、屋外彫刻作品の展示も



秋期：竹内栖鳳《絵になる最初》1913年
重要文化財

コレクションルームの年間スケジュール

春期 2020年3月21日(土)～6月21日(日)

夏期 2020年6月25日(木)～9月22日(祝・火)

秋期 2020年9月26日(土)～11月29日(日)

冬期 2020年12月3日(木)～2021年3月14日(日)

「桜の芳文」と称された菊池芳文の代表作《春の夕べ・霜の朝》をはじめとした春爛漫の光景は岡崎公園の疏水に桜吹雪が舞う頃に。また、縁側で月を待つ後ろ姿の美人画《待月》をはじめとした「上村松園の芸術」は蒸し暑い祇園祭の頃に。重要文化財に指定されている竹内栖鳳の《絵になる最初》をはじめとした「竹内栖鳳の芸術」は美しい嵐山の紅葉の季節に。そして、木島桜谷《寒月》をはじめとした雪のなかの動物たちは北山に時雨が降る頃に展示します。

当館のコレクションルームでは、いつ京都を訪れば、見たい作品や再会したい名品に逢うことができるのかわかるよう、年間展示計画を事前に発表します。《春の夕べ・霜の朝》の桜の花に隠れる雀たち、《絵になる最初》で恥ずかしそうに視線を外す娘、《待月》の浴衣美人が持つ団扇のうさぎ、《寒月》の照る雪の竹藪を忍び足で歩く狐が、鑑賞者に会えるのを待っています。

いつ訪れても、京都らしい季節を感じることでできる新名所として、京都の美の世界をお楽しみください。



夏期：上村松園《待月》 1926年



春期：菊池芳文《春の夕・霜の朝》 1903年



冬期：木島桜谷《寒月》 1912年



2020年度の展覧会は、京都市の予算の状況等により
変更される可能性があります。

プレスリリースに掲載している
広報用画像のお貸し出し、ご質問については下記まで
お問い合わせください。

京都市京セラ美術館 広報

TEL: 075-275-4271

E-mail: pr@kyoto-museum.jp

[Press Release 2019.8.28/29] Part 2

京都市京セラ美術館
プレオープニングイベント・ラインナップのご案内

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

■プレオープニングイベント・ラインナップ

プレオープニングイベント セレブレイティング・カラース! **CELEBRATING COLORS!**

2019年12月～2020年3月

1 鬼頭健吾スペシャル・インスタレーション p. 3

ゴースト・フラワーズ
「ghost flowers」

2019年12月21日(土)から2020年5月末まで(予定)

アンタイトルド (フラフープ)
「untitled (hula-hoop)」

2020年3月21日(土)から2020年5月末まで(予定)

2 京セラスクエア・ウィンターコンサート p. 4

2019年12月21日(土)

3 高橋匡太による本館ライトアップ p. 4

2019年12月21日(土)から

■開館時の同時開催プログラム

STEAM THINKING —未来を創るアート 京都からの挑戦 p. 5

国際アートコンペティション スタートアップ展

日本博 特別展「京都の国宝展—守り伝える日本のたから—」(仮称) p. 5

セレブレイトイング・カラーズ

プレオープニングイベント **CELEBRATING COLORS!**

京都市京セラ美術館では、2020年3月21日のリニューアルオープンにむけて、国内外で活躍する京都ゆかりのアーティストによるプレオープニングイベント「CELEBRATING COLORS!」を行います。「CELEBRATING COLORS! (色を祝おう!)」は、様々なアートに触れて感覚を開いていこう、様々な色彩を放つ美術館を楽しもう、という意味が込められ、皆様に美術館のリニューアルオープンに参加いただくためのイベントとして開催します。「どんな美術館になるんだろう?」「3月21日のオープンまで待ち切れない!」という思いを抱く来館者ひとりひとりが、「じぶんの色」を見つけながら、新しい美術館の息吹を感じていただけることを願っています。

特別協賛：京セラ株式会社

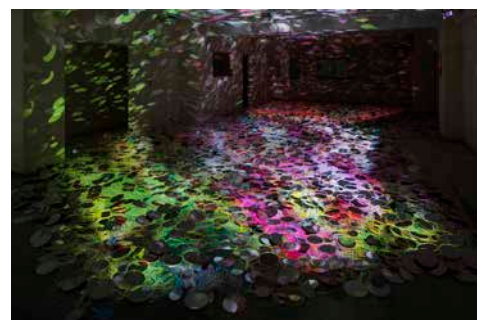
1 鬼頭健吾スペシャル・インスタレーション

ゴースト・フラワーズ

「ghost flowers」

会期：2019年12月21日(土)～2020年5月末(予定)

会場：北西エントランス1階(ザ・トライアングル上部)



鬼頭健吾 《ghost flowers》「アートプロジェクト高崎」2018年
撮影：木暮伸也

北西エントランス1階のガラス部分を舞台に、現代アートシーンの第一線で活躍するアーティスト鬼頭健吾の《ghost flowers》を展示します。建築の印象的なガラスファサードを活かし建物内部に配置された無数のミラーは、映像と周囲の風景をランダムに反射し、鑑賞者はスリリングな光や色の断片に魅了されることでしょう。さらに、リニューアルオープン以降は、地下1階ザ・トライアングルでも、鬼頭の新作展示がスタート予定。中央ホールの《untitled (hula-hoop)》とあわせ館内3か所で展開される鬼頭健吾の色彩あふれる世界でリニューアルオープンを祝います!

アンタイトルド (フラフープ)

「untitled (hula-hoop)」

会期：2020年3月21日(土)～2020年5月末(予定)

会場：本館 中央ホール



鬼頭健吾 《untitled (hula-hoop)》
「Multiple Star I」ハラミュージアムアーク 2017年
撮影：木暮伸也

リニューアルオープンを機に、かつて「大陳列室」と呼ばれ長年親しまれた展示室は、誰でも自由に入出入りできるパブリックスペースの「中央ホール」として新たに生まれ変わります。新スペースの誕生を祝って、鬼頭健吾のカラフルな大型作品《untitled (hula-hoop)》が来館者を迎えます。高さ約16メートルの天井から吊り下げられる本作品は、大量のプラスチック製フラフープが立体的に構成されている鬼頭の代表作。光あふれるダイナミックな空間に、幾重にも絡み合うフラフープが生み出す豊かな色彩の氾濫は、これまでにない新しい風景となることでしょう。

鬼頭健吾 プロフィール

1977年名古屋生まれ、群馬県在住。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画修了。京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授。2010年に文化庁新進芸術家海外研修員としてベルリンに滞在。主な個展に「interstellar」(京都造形芸術大学ギャラリーオーブ、2016年)、「鬼頭健吾 Multiple Star」(ハラミュージアムアーク、2017年)など。

2 京セラスクエア・ウィンターコンサート

日時:2019年12月21日(土)

会場:京セラスクエア

出演者:2019年10月に発表予定

本館のエントランス前に新設されたスロープ状の広場「京セラスクエア」を舞台に、美術館本館のファサードと平安神宮の大鳥居という岡崎エリアならではの景観を生かしたオープンコンサートを開催します。普段は来館者の玄関として人が行き交う場でありながら、閉館後はコンサートをはじめ様々なイベントも開催できるというマルチな機能を持つ「京セラスクエア」の魅力を、来館者のみなさまにいち早く体感していただきます。

3 高橋匡太による本館ライトアップ

会期:2019年12月21日(土)～

会場:本館

東山を背景にした壮麗な帝冠様式、現存する国内最古の公立美術館建築。今回のリニューアルでは、1933年創建当初の建築様式・外観は保存しつつ、ガラス・リボンなど新たな位相を組み込んだ画期的なりノベーションを図り、夜には美術館本館を美しいライトアップで彩ります。ライティングを手掛けるのは、京都を拠点に、歴史的建築や景観と連動した環境演出で知られる光のアーティスト高橋匡太。美しい四季折々の景観とともに愛されてきた美術館に、新たに夜景の魅力が加わります。



ライトアップイメージ 歴史的な本館を美しくライトアップ



イベント時には多彩な演出も

高橋匡太 プロフィール

1970年生まれ。京都府出身。1995年京都市立芸術大学大学院修了。映像と光を巧みに操りライティングプロジェクト、パブリックワークなど幅広く活躍。京都・二条城、十和田市現代美術館、東京駅など大規模な建築物のライティングプロジェクトでは、ダイナミックで造形的な映像と光の作品を作り出している。

STEAM THINKING —未来を創るアート 京都からの挑戦 国際アートコンペティション スタートアップ展

Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (芸術)、Mathematics (数学) を表すSTEAMを冠した「KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020」。この国際的な文化・芸術の祭典は、アート×サイエンス・テクノロジーをテーマに、多彩なプログラムを展開していきます。同フェスティバルのコアプログラムとして開催される本展では、アーティストと企業等がコラボレーションし、それぞれが持つ発想力や知見や技術を相互に結びつけることによって制作される作品を展示します。

展覧会では、2018年度からコラボレーションを続けているメディア・アーティストの鈴木太郎と京都の西陣織製造企業である有限会社フクオカ機業の新作のほかに、本展のために選抜された新進気鋭のアーティストと企業等のコラボレーション作品を展示します。

アーティストと企業等の持つ力は、どのように融合し、何を生み出すのでしょうか。アート×サイエンス・テクノロジーの可能性にご期待ください。

会期：2020年3月21日(土)～29日(日)

会場：本館 南回廊2階

主催・問合せ先：KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会
(TEL: 075-752-2212 E-mail: info@kyoto-steam.org)



鈴木太郎×有限会社フクオカ機業
《水を織る—西陣織の新たな表現》2019年
ロームシアター京都 プロムナード (北側) での展示風景



鈴木太郎《光であそぶ / Playing with Shine》2009年
横浜市民ギャラリーあざみ野 (制作：アトリエオモヤ)

KYOTO STEAM
—世界文化交流祭—

日本博 特別展「京都の国宝展—守り伝える日本のたから—」(仮称)

日本博主催・共催型企画として開催される本展は、古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料、歴史資料等の幅広い分野の京都ゆかりの国宝で通覧するものです。また、文化財の保存活用に必要不可欠な文化財修理、修理材料の確保や修理技術の継承、模写・模造製作を通じた技術の復元等の取り組みを多言語で紹介します。

会期：2020年4月28日(火)～6月21日(日)

会場：本館 北回廊2階

主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、京都市
問合せ先：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会

WEB：http://www.bunka.go.jp/seisaku/nihonhaku/index.html



国宝 絹本着色十二天像のうち水天 部分
(京都国立博物館所蔵)



国宝 太刀 (銘久国)
(文化庁所蔵)



2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

プレスリリースに掲載している
広報用画像のお貸し出し、ご質問については下記まで
お問い合わせください。

京都市京セラ美術館 広報

TEL: 075-275-4271

E-mail: pr@kyoto-museum.jp